

1 歯科領域における臨床検査-金属アレルギー検査(パッチテスト)について-

3
4 秦暢宏 水野由喜子 吉橋裕子 田村美智 草野義
5 久(東京歯科大学千葉病院臨床検査部)才藤純一(東京
6 歯科大学市川総合病院検査科)

7
8 【目的】金属にアレルギーを示す患者が増えている
9 なか、金属を用いる齶蝕治療を安全に行うために、
10 東京歯科大学千葉病院では1996年4月より金属ア
11 ルギー検査(パッチテスト)を行なってきた。その
12 うち2000年~2012年現在までの13年間(1037名)
13 の統計と今後の展開について報告する。

14 【方法】鳥居製薬社製金属用パッチテスト試薬と自
15 家調整したチタン試薬(2種)をパッチテスト用テ
16 ープに浸透させ48時間皮膚に貼付した後に48時間
17 後、72時間後、1週間後の貼付部位を基準に従い目
18 視にて判定を行った。

19 【結果】対象とした1037名の内、金属アレルギーを
20 疑う(1+)以上の反応を認めた患者数は581名(56%)
21 であった。陽性率の高い金属はニッケル(72時間判
22 定:24%)、亜鉛(72時間判定18%)、パラジウム(72
23 時間判定:14%)であった。臨床診断別では、金属
24 アレルギー疑い584名(50%)と最も多く、掌蹠膿疱症
25 225名(19%)、扁平苔癬81名(7%)と続いた。

26 【考察】潜在的に多くの患者が存在するものと考え
27 られる。

28 【結論】歯科領域では多くの金属を診療に用いるた
29 めため、事前に金属アレルギーの有無を確認する事
30 は重要と思われた。